

県内の死亡事故の特徴

1 四輪乗車中の死者のうち、シートベルト非着用が多い

昨年同期19人（32.8%）だった四輪乗車中の死者が50人中24人（48.0%）に増加、うちシートベルト非着用・不明は15人（62.5%）を占める。

シートベルト非着用・不明	
H22	H23
19人中14人 (73.7%)	⇒ 24人中15人 (62.5%)
※全国の非着用・不明は50.0% (平成23年11月末現在)	

2 歩行者・自転車乗用者の死亡事故は、夜間に集中

ア 歩行者・自転車乗用中の死者22人のうち19人は夜間に発生し、19人中9人は車から見て右から左への横断であり、夜間歩行中の16人のうち14人は反射材を使用していなかった。

歩行者・自転車乗用中の死者	
◇夜間	
H22 31人中19人 (73.7%)	⇒ H23 22人中19人 (86.4%)
◇横断者の向き（右から左）	
H22 22人中13人 (59.1%)	⇒ H23 15人中10人 (66.7%)

イ 夜間事故の車のライトの向きは19件とも下向きで、うち13件は上向きが可能であったと思われる。

3 飲酒事故が増加

昨年1年間2件だった飲酒事故が本年は5件発生している。

4 単独事故が増加

昨年同期15件（26.3%）だった単独事故が50件中16件（32.0%）と、件数・割合ともに増加しており、原因は運転操作不適が6件と最多で、次いで最高速度違反が3件である。

5 高齢ドライバーによる事故が多い

昨年同期17件（29.8%）だった高齢ドライバーによる事故が50件中12件（24.0%）発生しており、引き続き高い割合を占めている。

6 運転者の事故原因は、前方不注意が多い

事故原因は、前方不注意が20件（40.0%）と多く、次いで最高速度違反が7件である。

昨年同期に比べて増加した原因	
運転操作不適	3件（5.3%） ⇒ 6件（12.0%）
一時不停止	2件（3.5%） ⇒ 4件（8.0%）
前方不注意	18件（31.6%） ⇒ 20件（40.0%）